

バドミントンのまち長岡京市

そして次代を担う小学生

若葉カップ全国小学生バドミントン大会

大会のあゆみと概要書

1 , 第 1 回から14回大会までのあゆみ.....	2
2 , 若葉カップ大会の概要〔第15回（前回）より〕	
主催者、開催の経緯、目的等に関する事項.....	6
事故防止、救護体制、補償措置に関する事項.....	8
表彰に関する事項.....	9
3 , 第15回までの回顧と今後.....	10

第1回大会 昭和60年8月27日(火)～28日(水) 京都府立体育館・京都市武道センター
小学生の全国大会としてジュニアジャパンカップバドミントン大会の名称で開催。
大会事務局を長岡京市バドミントン協会理事長宅に置く。(第6回まで)
北は宮城県から南は愛媛県までの39チーム 500名を超える選手、指導者が参加。
参加チーム数：男子14チーム・女子25チーム

第2回大会 昭和61年8月8日(土)～10日(月) 長岡京市西山公園体育館・京都府立体育館
大会名を「若葉カップ小学生バドミントン大会」と改名する。
北は宮城県から南は佐賀県までの47チーム 650名を超える選手、指導者が参加。
昭和63年京都国体のバドミントン会場として7月12日にオープンした西山公園体育館を初めて使用。
参加チーム数：男子13チーム・女子34チーム

第3回大会 昭和62年8月9日(土)～11日(月) 長岡京市西山公園体育館・大山崎町体育館
北は茨城県から南は佐賀県までの44チーム 600名を超える選手、指導者が参加。
参加チーム数：男子13チーム・女子31チーム

第4回大会 昭和63年8月6日(土)～8日(月) 長岡京市西山公園体育館
今大会から東日本と西日本に別れ、西日本大会として開催。(第6回まで)翌年の1月6日に東日本と西日本大会のそれぞれ上位チームによる中央大会が開催される。
北は石川県から南は愛媛県までの西日本から50チーム 700名を超える選手、指導者が参加。
参加チーム数：男子18チーム・女子32チーム

第5回大会 平成元年8月5日(土)～7日(月) 長岡京市西山公園体育館
北は石川県から南は佐賀県までの西日本から43チーム 600名を超える選手、指導者が参加。

参加チ - ム数：男子17チ - ム・女子26チ - ム

第6回大会 平成2年8月4日(土)～6日(月) 長岡京市西山公園体育館

若葉カップ小学生バドミントン大会実行委員会を組織し、主管として大会運営に当たる。

北は石川県から南は香川県までの西日本から47チーム 650名を超える選手、指導者が参加。

参加チ - ム数：男子18チ - ム・女子29チ - ム

第7回大会 平成3年8月3日(土)～5日(月) 長岡京市西山公園体育館

大会実行委員会を改組し、長岡京市、長岡京市教育委員会、財団法人長岡京市体育協会、京都府バドミントン協会の4者によって構成する「若葉カップ小学生バドミントン大会実行委員会」に再組織し、主催として大会運営に当たる。

実行委員会事務局を長岡京市西山公園体育館内の財団法人長岡京市体育協会事務局内に設置。(以降、毎年継続)

株式会社村田製作所が特別協賛となり財政的な支援を得る。参加チームの交通費と宿泊費の一部補助を実施。(以降、毎年継続)

北は宮城県から南は福岡県までの日本各地から47チーム 650名を超える選手、指導者が参加。

開会式後にサントリ - 選手による模範試合を実施。(第11回まで)

初日の夕方から選手交流会を実施。(第11回まで)

監督代表者懇親会を実施。(第12回まで)

国際交流事業として韓国小学生選手団を招請し最終日に大会参加チームの選抜と交流試合を開催。

参加チ - ム数：男子21チ - ム・女子34チ - ム

第8回大会 平成4年8月1日(土)～3日(月) 長岡京市西山公園体育館

北は石川県から南は大分県までの日本各地から68チーム 950名を超える選手、指導者が参加。

国際交流事業として中国小学生選手団を招請し最終日に大会参加チームの選抜と交流試合を開催。

参加チ - ム数：男子25チ - ム・女子43チ - ム

第9回大会 平成5年8月21日(土)～23日(月) 長岡京市西山公園体育館

北は千葉県から南は鹿児島県までの日本各地から50チーム 700名を超える選手、指導者が参加。

国際交流事業としてインドネシアのジョグジャカルタ小学生選手団を招請し最終日に大会参加チームの選抜と交流試合を開催。

参加チ - ム数：男子19チ - ム・女子31チ - ム

第10回大会 平成6年8月20日(土)～22日(月) 長岡京市西山公園体育館

北は千葉県から南は鹿児島県までの日本各地から55チーム 770名を超える選手、指導者が参加。

国際交流事業として中国小学生選手団を招請し最終日に大会参加チームの選抜と交流試合を開催。

参加チ - ム数：男子20チ - ム・女子35チ - ム

第11回大会 平成7年8月18日(金)～21日(月) 長岡京市西山公園体育館

大会名を「若葉カップ全国小学生バドミントン大会」と改名。

大会実行委員会に、日本ジュニアバドミントン連盟が加入し、計5者による実行委員会として主催し、大会運営に当たる。

大会期間を1日増やし金～月の4日間とする。

北は宮城県から南は大分県までの日本各地から81チーム 1,100名を超える選手、指導者が参加。

監督代表者研修会を初めて実施。

テーマ：「楽しく・厳しく、可能性を秘めた小学生の発掘と育成」

講師：山本 次生 氏 (サトリ-副部長兼監督)

参加チ - ム数：男子35チ - ム・女子46チ - ム

第12回大会 平成8年8月16日(金)～19日(月) 長岡京市西山公園体育館

北は北海道から南は佐賀県までの日本各地から80チーム 1,100名を超える選手、指導者が参加。

都道府県予選大会を勝ち抜いたチームによる都道府県対抗のクラブ対抗

戦とするため、成績をプログラムに記載した。（以降、毎年継続）
実行委員会より、都道府県予選大会の開催経費の一部補助を行う。

参加チ - ム数：男子34チ - ム・女子46チ - ム

第13回大会 平成9年8月15日(金)～18日(月) 長岡京市西山公園体育館

北は北海道から南は長崎県までの日本各地から81チーム 1,100名を超える選手、指導者が参加。

大会シンボルマークを制定。全国各地から応募のあった 108点の作品の中から選考委員会で決定。

開会式を15日金に移動。（以降、毎年継続）

参加チ - ム数：男子33チ - ム・女子48チ - ム

第14回大会 平成10年8月7日(金)～10日(月) 長岡京市西山公園体育館

北は宮城県から南は福岡県までの日本各地から79チーム 1,100名を超える選手、指導者が参加。

日本ジュニアバドミントン連盟が、日本小学生バドミントン連盟に改名。インターネットによる大会内容、成績などの情報を提供。

参加チ - ム数：男子33チ - ム・女子46チ - ム

第15回大会 平成11年8月6日(金)～9日(月) 長岡京市西山公園体育館

第15回記念大会として開催。

- ◆ 記念大会として文部省の後援と有馬文部大臣杯の授与を受ける。
- ◆ 朝日新聞社の製作協力による「速報新聞」の現場作成と配布。
- ◆ 「小学生が主役」を合言葉にした式典運営に努める。
- ◆ 開会式後にクイズ形式の選手交流会を開催。同時に監督・代表者懇親会を開催。

北は宮城県から南は沖縄県までの日本各地から89チーム 1,300名を超える選手、指導者が参加。沖縄県は初出場。

昨年に続き、京都府バドミントン協会の協力により、インターネットによる大会内容、成績などの情報を提供。

参加チ - ム数：男子41チ - ム・女子48チ - ム

主催者、開催の経緯、目的等に関する事項

1. 主催団体の構成と沿革

若葉カップ全国小学生バドミントン大会実行委員会

(長岡京市・長岡京市教育委員会・京都府バドミントン協会・
日本小学生バドミントン連盟・財団法人長岡京市体育協会の5者で構成)

長岡京市・長岡京市教育委員会

京都府の西南部に位置する人口78,000人の市。平城京から平安京の間の10年間、長岡京があり歴史的に日本の都として栄える。昭和30年代後半から京都と大阪の中間に位置する立地条件もあって住宅都市として人口が急増した市です。

京都府バドミントン協会

昭和21年に設立し、財京都府体育協会、財日本バドミントン協会に加盟。京都府下市町村のバドミントン組織の統括団体として各種大会の開催や指導者・審判員の資質向上の事業を推進している。一方、日本リーグや実業団、社会人大会などの全国大会の誘致開催に努めている。

日本小学生バドミントン連盟

平成4年に「日本国内の小学生バドミントン団体の中枢機関となり、バドミントンの健全なる発展を図り、小学生の育成と体位の向上に寄与し、併せて将来社会に貢献できる人間を養成する」ことを目的に設立。小学生の競技会や指導者の交流と情報交換などの事業を実施しながら、都道府県における小学生組織の強化にも積極的に努めている。

財団法人長岡京市体育協会

昭和56年に設立し、昭和60年に財団法人化。市民スポーツの普及振興を目的に各種事業を展開。京都府下市町村対抗の大会でも総合成績が常に上位に位置し、各種目団体と社会体育振興会を2本柱に競技力向上と底辺拡大に努めている。また、スポーツ少年団活動にも力を入れ、青少年の健全育成に努めている。事務局は長岡京市西山公園体育館内。

2. 後援・協賛団体等

後 援 文部省・財団法人日本バドミントン協会・京都府・京都府教育委員会
財団法人京都府体育協会・朝日新聞社・京都新聞社・産経新聞社
日本経済新聞社・毎日新聞社・読売新聞社・NHK京都放送局・KBS京都
ベースボールマガジン社バドミントンマガジン
特別協賛 株式会社村田製作所

協 賛 京都乙訓ロータリークラブ・京都西山ロータリークラブ
京都乙訓ライオンズクラブ・京都西山ライオンズクラブ
ヨネックス株式会社・ミズノ株式会社・株式会社ゴーセン
サントリー株式会社

3.大会開催の経緯

昭和63年京都国体の開催が決まり、長岡京市として、ポスト国体の遺産を何か残そうという考え方に立った。色々な審議と検討の中から次代を担う小学生に注目し、小学生による全国大会を昭和60年に第1回を開催することになった。スポーツを通じた青少年の健全な育成と、バドミントン競技の全国への奨励と普及を目指して開催。

4.大会開催の目的

全国の小学生にバドミントン競技をする機会を広く提供し、競技を通じて体力の増強と健全で心豊かな人間育成とともに、少年少女の相互の交流と夏休みの思い出に残る大会として開催する。

< 具体的目的 > ...小学生のバドミントンチャンピオンを決定する大会ではなく、日頃から練習しているチ - ムメイトと共に参加し、練習の成果を発表する場の提供と全国の友達づくり、夏休みの思い出づくりの場となることを願って、クラブ対抗戦として「バドミントンの甲子園」大会を目指している。

5.参加チーム(子供たち・指導者)への取組み

試合の合間に長岡京市内をはじめ、京都市内の観光をし、夏休みの思い出に残る大会となるよう運営にあたっている。過去には選手交流会や海外からの小学生を招請し、国際交流をはじめ、相互の交流と全国の友達づくりの場を提供した。実業団チ - ムによる模範試合の観戦も実施した。現在は氏名、住所等を記載した郷土色豊かな選手交換品を対戦相手の選手と相互交換し、交流を図っている。

監督代表者会議で大会の趣旨、ルール・マナーを守ることを徹底している。過去には監督代表者研修会を実施し、指導者の資質向上や監督代表者懇親会を開催し、指導者間の懇親と情報交換の場を設けた。

6.都道府県予選大会及び参加チームへの支援

第12回から都道府県予選大会の充実にも力を入れ、予選大会開催に伴う都道府県小学生組織の強化と連携を目指している。予選大会開催に伴う経費の一部として、参加チーム数に応じて実行委員会から補助金を交付している。

大会参加に伴う子供たちの交通費、宿泊費を少しでも軽減するために、実行委員会から京都までの距離に応じ、チームに対して補助金交付要綱に基づき補助金を交付している。

事故防止、救護体制、補償等に関する事項

1. 事故防止について

開催要項に、「試合中の事故については応急措置及びスポーツ傷害保険の範囲内で対処するが、補償等の責任は負いかねるので、十分注意すること。」と明記し、参加チームをはじめ、関係者に注意を呼び掛けている。また監督代表者会議でも上記を再度説明し、注意を呼び掛けている。

盛夏の時季の大会なので、会場内の大体育室、エントランスホール、選手控室などの冷房運転をはじめ、協賛企業からのスポーツドリンクの無料冷却配付、試合中の飲料水の摂取を推進し、参加選手、関係者の健康管理に努めている。

2. 救護体制について

大会期間中、看護婦を常駐させ、応急手当てに努めている。

主催者の一員である長岡京市を通じて、市内の病院、消防署への事前連絡を行い、万一の事故に備えている。

3. 補償措置等について

主催者が、次の保険内容の傷害保険に加入している。

死亡・後遺傷害保険金.....	1 , 2 1 2 , 0 0 0 円
入院保険金日額(180日限度).....	1 , 5 0 0 円
通院保険金日額(180日限度)	1 , 0 0 0 円

主催者が、次の保険内容の賠償責任保険に加入している。

対人賠償.....	1 名	5,000万円 / 1 事故	3 億円
対物賠償.....	1 事故	5,000万円	

両保険とも、試合会場はもちろん、駐車場などの体育館の敷地内が対象

表彰に関する事項

表彰に関することは開催要項に次のとおり定めている。(第15回要項より抜粋)

19. 表 彰

- 1) 優勝チームには賞状と優勝カップ、並びに文部大臣杯(申請中)、京都府知事賞状及び副賞を授与する。なお、優勝カップは優勝チームが1年間保管し、翌年の大会で返還するものとする。
- 2) 優勝チームの選手には金メダルを授与する。
- 3) 準優勝チームには賞状と準優勝トロフィーを授与する。
- 4) 準優勝チームの選手には銀メダルを授与する。
- 5) 3位チームには賞状と入賞トロフィーを授与する。
- 6) 3位チームの選手には銅メダルを授与する。

その他、参加全チームの選手と指導者に参加賞として、大会名入りのTシャツを渡している。

はじめに

昭和63年に京都府での第43回国民体育大会開催と長岡京市でのバドミントン会場の決定を受け、昭和60年にポスト国体としての位置付けで第1回大会を開催。以降、関係団体の協力と支援を得ながら、長岡京市を中心とした実行委員会形式により実施。当初は小学生の競技人口も少なく、技術の差も大きいものであったが、回を積み重ねるごとに参加チームのレベルが目覚ましく向上し、熱戦を展開してきています。

過去の実績と成果

平成3年には韓国、平成4年には中国、平成5年にはインドネシア、平成6年には中国と、バドミントン界では世界トップレベルの海外からの小学生選手団を招請し日本選手との交流試合を通じた国際交流事業も同時開催しました。大会に参加した選手の中から、全国中学生大会、インターハイ、大学選手権をはじめ、実業団チームで活躍する選手たちが育ってきています。またナショナルチームのメンバーに選ばれ、オリンピックやアジア大会などの国際大会で活躍する選手も育ってきています。

今後の展望と期待

「トップ選手の活躍がスポーツへの関心を高め底辺の拡大がトップの競技力を高める」競技力向上と底辺拡大が両立するような大会を願っています。

近年、都道府県予選大会を勝ち抜いたチームが出場するなど、長岡京市が目指す「バドミントンの甲子園」に近づいています。これらは都道府県の関係の皆さんをはじめ、日夜にわたる指導者の熱意と理解の賜物であります。

予選大会をはじめ、大会に参加した子供たちが、学校で学ばない体験や経験を通じて、他の子供たちの模範となり、ルールやマナーを大切にされた心豊かな人間育成、小さな勇気を持った子供の育成、社会の一員としての自覚と責任を持ちながら、他都道府県選手との出会いを大切に夏休みの思い出に残る大会になるよう祈念しています。